



第14回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

観光のその先へ

石川県・金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 1年 林腰 杏優

2014年3月14日、私の住む金沢市にとって、大事件とも言える出来事が起こった。北陸新幹線の開業だ。これによって、東京ー金沢間が2時間半で行き来できるようになった。

北陸新幹線開業によって、地域は大きく変わった。1つ目は観光客の増加、特に外国人観光客が増えたことだ。金沢市のHPによると、主要観光地の入込状況は兼六園290万人で前年比約5割増、金沢城公園では約220万人と前年比約8割増、江戸時代の風情を残す町屋がならぶひがし茶屋街では約16万人、何と9割近く増加¹⁾するという好調ぶりだ。2つ目は、市内中心部の再開発が進んだことだ。金沢は、城下町ということもあり、昔から駅周辺よりも、お城を中心に栄えてきた。片町には「片町きらら」、武蔵ヶ辻では「ル・キューブ金沢」など、様々な施設が開店し街に活気が増している。

これらのことは経済にもインパクトを与えているようだ。「今年の6月には有効求人倍率が1.67倍となり」²⁾、「特に、小売り・サービス・食品製造等が好況である。人手不足の企業も多い。」³⁾とのこと。今年7月の日本銀行金沢支店の「北陸の金融経済月報」によると「設備投資は着実に増加している。……雇用・所得環境は着実に改善している。」⁴⁾という。新幹線の波及効果は雇用にまで好影響を与えており、現在のところ、地域経済は良い方向に向かっていることは間違いない。

しかし、この新幹線効果はずっと続くわけではない。各地の過去の事例からも、続いたとしてもせいぜいが1、2年と言われている。新幹線効果が落ち着き始めた時、観光産業から不況に陥ることなく、好景気を維持するにはどうすればよいのだろうか。

私の通う高校は、文部科学省によってスーパーグローバルハイスクールに指定されている。その活動の一環として「地域課題研究」に取り組んでいる。これは、未来を担う若者として地域を幸せにする方法を考えようというものだ。

世界、日本といったグローバルな問題を考える前に、身近な地域のローカルな問題について考え、具体的なアクションを起こしてみる。それによって、将来世界的な問題解決力を身につけることを目標としている。

私たちのグループでは、北陸新幹線開業の波及効果が続く中、「外国人観光客のリピーターを増やす」というテーマに取り組んでいる。新幹線ブームが続いている今だからこそ、リピーターの確保は重要課題だといえる。

実は、このテーマには、さらなる野望が隠されている。それは、そのリピーターの方々の口コミ力で、わが金沢の伝統工芸や文化を世界に発信していこうというものだ。観光のその先へ行こうというちょっと大胆な企画なのである。地域課題研究を進める際、私たちは、心と心のコミュニケーションを一番大切に考えてきた。自分たちだったら、どんなことが嬉しいだろうか？と考えた結果である。

まず、私たちはインターネットや周りの人々へのインタビューを行い、外国人観光客受け入れの現状について調べた。そこで「最近、公衆トイレが汚くなるとるげんけど、外国の方は使い方が分からんがじゃないかいね。」とマナーの悪化を懸念する声や、「うちのおばあちゃんの商店街では、観光客の方と写真を撮る店、傘を貸す店、通訳をする店と、店ごとに役割分担しとるよ。」と地域ごとの受け入れ体制がとられている話も聞いた。他にも、外国人の方にとって標識が分かりにくいという問題点も見えてきた。

これらをもとに私たちは主に3つの提案をすることとした。1つ目は、外国人に対してマナーに関するイラスト付きポスターを作成することだ。これによって、日本の習慣やマナーについて見ただけで理解してもらえれば、マナーは改善され、地元民の観光客への悪いイメージも払拭されると思う。そこから楽しい交流が始まることだろう。真の交流を目指すならば、ビジター側の満足度だけではなく、ホスト側の満足感も重視する必要があると思う。私たちは、そういう心と心の触れ合いが未来に繋がると考えている。

2つ目は、現在作られている観光関係者向けのマニュアルの使用を、一般人にまで広げることだ。私たちは、提案内容を考える際、パリや京都など、有名な観光地で実際に感じた印象についても話し合った。先人の良いところは積極的に取り入れようという考えだ。例えば、パリで道に迷った時、おじいさんやおばちゃんなど、買い物途中の一般の方が、スラスラと道案内をしてくれた。

とても嬉しかったし、さすが観光大国だなと思った。現在、金沢では子どももお年寄りも、道を聞かれることが増えつつあるものの、もじもじする人も少ない。そこで、簡単なマニュアルを作り、それを学校の授業や、町内会の活動で取り入れれば、尋ねられた時にスラスラと案内できるようになると思う。金沢に旅行した時の、そういった嬉しかった思い出がリピーターに繋がるのではないだろうか。

3つ目は、Twitter で金沢の情報発信をすることだ。HP ではだめなのかと思う人もいるかもしれない。だが、断然 Twitter を推したいと思う。私たち世代にじっくりくるといふ理由だけではない。HP が主に受け身の利用者なのに対し、Twitter は双方向性の要素が強い。実際その拡散力は凄まじいものがある。例えば、私の友人で Twitter をしている子はよく「カフェチェーン店」や「チョコレートブランド」についてつぶやいたりリツイートするのだが、今は、企業からリプライがくる時代なのだ。企業側からすれば、低コストで効率的に宣伝ができるツールなのだ。私たちもこれを活用しない手はない。金沢に来ている留学生の方々に協力をお願いして「まいどさん」や「あんやと」など、金沢弁を使うことを促進する動画をアップしてはどうだろうか。これも先人の教えをいかそうというところからの発想なのだが、パリでは観光客も皆、一步お店に入ると「ボンジュール」とあいさつする。そうすると地元民の笑顔と共に「ボンジュール」と挨拶が返ってくる。たったこれだけのこともかもしれないが、実際嬉しいものだし、そこから会話が始まったりもするのだ。外国人観光客にとって金沢弁は使うだけで金沢の人と親しくなれる魔法の言葉になるかもしれないし、また、地元の人にとっても金沢弁を使ってくれる外国人は、親しみやすい存在となるはずだ。そこから心と心の新しい交流が生まれるような気がする。

また、金沢のお薦めスポットを地元民や来沢経験者から募集し、それをアップするというのも、地域参加型のイベントとなって面白いのではないかと思う。

先日、私たちはこれらの提案を持って、県庁の方とお話をさせてもらう機会をいただいた。石川県でも飲食店メニューの多言語化支援システムのサイト⁵⁾を開設したり、指さし会話集を作成するなど、四か国語に対応するものが既に作られていることを知った。自分たちの考えに近いものや、思いつかなかったものもあって、凄いなと感じた。

私たちの提案については、「Twitterの活用案は面白いね、動画とかいいと思うよ。」と嬉しいお言葉をいただいた。

石川県の新幹線による経済波及効果は124億円⁶⁾と言われている。この数字がどうなるかは、これからの私たちの行動にかかっていると思う。

私は金沢の伝統文化が大好きだ。その中でも、おばあちゃんから孫へと受け継がれてきたような手仕事は特に好き。加賀指ぬきなどは綺麗^{きれい}だし、なんだかあったかい感じがする。先の長い話かもしれないが、世界のあちこちで、加賀指ぬきや金沢箔^{はく}の雑貨、九谷焼等、金沢のモノを手にとる人が増える日が早くきてほしい。これからも自分たちなりにできることを考えながら成長していきたい。

(注)

- 1) 金沢市経済局営業戦略部観光交流課「金沢市観光調査結果報告書」平成27年(2015)
URL <http://www4.city.kanazawa.lg.jp/data/open/cnt/3/14897/1/kanko-chousa2015.pdf>
- 2) 石川労働局「最近の雇用失業情勢(平成28年6月分)」、平成28年7月29日
- 3) 石川県企画振興部企画課「新幹線開業後の状況把握調査の結果」、石川県長期構想策定検討会議第2回会議資料(参考資料2)平成27年10月6日
URL <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kikaku/keikaku/documents/06shinkansen.pdf>
- 4) 日本銀行金沢支店「北陸の金融経済月報」(2016年7月)、2016年7月19日
URL <http://www3.boj.or.jp/kanazawa/kouhyou/getsurei/16-20/16/gts1607.pdf>
- 5) 石川県の美味を楽しむホームページ Gourmet Ishikawa
URL <http://gourmet.hot-ishikawa.jp/>
- 6) 五十里寛「北陸新幹線開業の長期的効果への期待」、日本政策投資銀行設備投資研究所コラム「設研の視点」、2015年3月30日
URL http://www.dbj.jp/ricf/pdf/information/column/RICF_Column_20150330.pdf
原典は日本政策投資銀行北陸支店地域企画部「北陸新幹線金沢開業による石川県内への経済波及効果」2013年3月
URL http://www.dbj.jp/pdf/investigate/area/hokuriku/pdf_all/hokuriku_1303_01.pdf